

腫瘍内科

【当科でローテーションしたら-これが売り！！】

1. 本邦では2人に1人がんに罹患し、3人に1人がんで死亡しています。将来何科に進んでもがん患者の診療は必須となります。当科でのローテーションでは外来、病棟および各科から依頼された転移・進行がん患者を担当し、がん診療（抗がん剤治療、副作用対策、緩和ケアなど）を修得します。
2. がん医療は日進月歩であり、近年では特にがん免疫療法の進歩が著しく、著明な抗腫瘍効果が得られる一方、これまでに一般的でなかった副作用も出現します。がん免疫療法の副作用は全身臓器に出現するため、幅広い内科的対応が必須となります。これらの対応を修得することにより、**Generalist** としても通用します。
3. 高齢化に伴い、在宅医療、往診クリニックや緩和ケアのニーズが高まることが予想され、がん患者の診療ができるという強みは、これらの領域へも、どんどん進出することができます。腫瘍内科的知識と経験は将来の在宅医には必須の経験となるでしょう。
4. 当科での女性医師や育メンの支援については、「外来化学療法」の専従となることです。これは完全予約制の午前9時から午後5時の化学療法室勤務となるので、出産、育児によるキャリアの断層はなく、ほぼ切れ目なくキャリアを継続できます。腫瘍内科的知識はいつでも **e-learning** などで補充できます。キャリアプランについて希望があればいつでも相談して下さい。
5. **Physician Scientist** を目指したい方は是非当科へいらっしゃって下さい。講座主任の柴田教授の最大の興味は基礎科学、**Science** です。研究もやりたいけど食いはぐれも心配という人もドンドン来て下さい。腫瘍学は日進月歩の研究分野であり、手に職をつけながら、また、臨床の現場の悲痛な叫びをモチベーションに変えながら、**Physician Scientist** を目指す人を支援します。将来的に研究の道を進むのもよし。モラトリアム期間を支援します。
6. 以下の手技を研修期間中に修得が可能です。
 - ・ 静脈留置針による静脈確保 ・ 静脈血採血、動脈血採血 ・ 中心静脈確保
 - ・ 腹腔穿刺、胸腔穿刺 ・ 腹部超音波検査その他、学会参加したい、研究したいなど希望に応じて研修内容の調整は可です。

【専門研修に向けて(希望者には!)]

1. 各腫瘍の標準的治療内容を学ぶ。
2. 担当患者を決め、メインの担当医として診療を行う。
3. 上述の手技に加えて CV ポート造設
4. 研究、学会発表など

一般目標

現在、3人から2人に1人ががんで死亡する我が国にあって、進行がん患者の診療の機会は少なくない。我が国の疾病構造を考えると極めて重要な領域であるにもかかわらず、従来までの医学部教育では殆ど学習する機会が無い。研修期間に、一時でも、このような患者の診察、治療法に触れることは「がん大国」、日本で医療活動を行う医師にとって極めて重要である。進行がん患者に対する診療方法を様々なケースで体験し、これらの疾患を取り扱う際に知らねばならない必要最小限の知識とスキルを身につけ、このステージにあるがん患者に提供できる最良の治療について経験する。

行動目標

1. 進行がん患者に対する医療面接の方法について習熟する（告知、インフォームドコンセントなど）。
2. 進行がん患者の病状把握のために必要な問診、診察、検査について理解し、それらを実践できる。
3. 進行がん患者の治療法選択のために必要な問診、診察、検査について理解し、それらを実践できる。
4. がん薬物療法を実施可能な患者を的確に診断でき、適切な治療計画を立てることができる。
5. 治療に伴う有害事象について理解し、治療目的・治療計画とともに患者に説明し、患者からインフォームドコンセントを得ることができる。
6. 進行がん患者に生じる様々な苦痛に対し、それらを緩和させる方法について知り、実践する。
7. 進行がん患者、およびその家族に対する全人的な接遇方法について学び、実践する。

チェックリスト

知識：

1. 抗がん剤の作用メカニズム、副作用のプロフィールについて理解する。
2. 分子標的薬の作用メカニズム、副作用のプロフィールについて理解する。
3. 標準的な抗がん剤のプロトコールについて理解し、併用薬剤の種類、投与量の算出方法、投与間隔、投与禁忌、投与可能条件、減量方法、補助薬の種類と使用方法などについて理解する。
4. 抗がん剤の効果判定の方法について理解する。
5. 抗がん剤の有害事象の判定方法と対応法について理解する。
6. 臨床試験と一般診療の違いを知り、実践する。

技能：

1. 抗がん剤投与のためのルート確保（末梢血管，中心静脈カテーテル挿入，ポート増設など）ができる。
2. 上記ルートから抗がん剤の投与を行う。
3. 超音波診断装置を用いたがん性体腔液貯留の診断と穿刺，廃液が実施できる。
4. 胃管やイレウス管を用いた消化管の減圧，廃液が実施できる。
5. 緊急時に必要に応じて気管内挿管ができる。
6. 各種がんの標準的な化学療法について認識する。
7. 標準的な抗がん剤の投与量の設定、減量、治療実施の可否の判断ができる。
8. 有害事象に対する対応、予防法について習熟する。

詳しい検査をオーダーする能力：

1. CT, MRI, PET-CT などの各種核医学検査
2. 腫瘍マーカー
3. 免疫組織化学検査
4. 遺伝子検査／バイオマーカー検査

研修方法

1. 指導医とともに入院患者の診療を行う。
2. 指導医とともに外来患者の診療を行う。
3. 外来化学療法室でのチーム医療に参画する。
4. 新患の予診を取り，問題点を整理する。
5. キャンサーボードや症例カンファランス（毎朝実施）で症例提示を行う。
6. 進行がん患者、および家族とのコミュニケーションを習熟する。
7. 薬剤師、看護師などともにチーム医療を行う。
8. 研修期間中の症例に関して日本内科学会の症例報告に準じたレポートを作成し，スタッフの評価を受ける。また，興味深い症例に関しては学会誌などに症例報告を行う。

指導医

柴田浩行，井上正広，福田耕二

腫瘍内科ホームページ

<http://www.med.akita-u.ac.jp/~medonco/>

腫瘍内科についてのご質問

柴田浩行

e-mail: hiroyuki@med.akita-u.ac.jp

TEL : 018-884-6261 , FAX : 018-884-6455

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:30	外来および化学療法室	外来および化学療法室	外来および化学療法室	外来および化学療法室	外来および化学療法室
12:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00	病棟および化学療法室	病棟および化学療法室	病棟および化学療法室	病棟および化学療法室	病棟および化学療法室 病棟症例検討
17:00	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診
18:00	乳癌 CB	食道がん CB	医局会	骨転移 CB	
19:00		消化器がん CB	抄読会		